

科目名		基準点測量実習			
担当教員		稲田 巧	実務授業の有無	○	
対象学科	環境測量科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	測量業、建設業にとって測量作業の基本であり、重要な分野である。基準点・水準測量の技術が地形測量、応用測量等の測量分野に活用されている。水準測量・基準点では機器の据付、観測方法について学習する。				
学習目標 (到達目標)	チルチングレベル、自動 (オート) レベルを使った水準測量の結果を計算できるようになる。また、機械の据付及び観測方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント、資料を配布する。				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水準測量	器械の使い方・整地	水準測量で使用される器具について学習する。オートレベルの整地の練習、標尺の読定を行う。		
2	水準測量	環閉合・往復観測	オートレベルによる環閉合・往復観測の実施。		
3	水準測量	環閉合・往復観測	チルチングレベルによる環閉合・往復観測の実施。		
4	水準測量	電子レベル・マイクロメータ	※雨天時に校内で電子レベルの観測を行う。また、マイクロメータの読みを行う。		
5	基準点測量	トランシットの据付練習	トランシットを実習地で1人ずつ据え付ける練習を行う。最終的には、5分で整地、求心まで出来るようになる。		
6	基準点測量	トランシットの据付実習試験	据付の精度と据付時間により採点する。		
7	基準点測量	水平角の観測練習	トランシットを据付け、水平角の観測を行い観測手簿に記入し、結果を計算して提出する。		
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題	確認テスト	実習試験	実習を通して水準測量・基準点測量に関する技術を習得し、就職時に即戦力になれるよう実力をつけてもらいたい。尚、基準点測量は測量の基本であるため、今後学習する地形測量・応用測量にも活かしてほしい。	
10 %	30 %	20 %	40 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	測量会社にて測量業務24年				